

バクトリア王国発行「ギリシア語インド語併用貨幣」の銘文総表(1)

吉池孝一

1. はじめに

所謂インド・グreek朝(バクトリア王国のギリシア人王のうちヒンドゥークシュ山脈を越えてインド西北のガンダーラー帯に侵出した王の国をこのように呼ぶ場合がある)に於いて、ギリシア語とインド語の二言語を、貨幣の両面に併用する銘文を持つ貨幣が発行された。



表



裏

これはインド・グreek朝の最盛期を築いたメナンドロス(ミリンダ)王の貨幣である。^{おもて}表にギリシア文字によるギリシア語で *basileōs sō[tēros]* ^{改行} *menandroy* 「救済者たる王メナンドロスの」とある。^{うら}裏にカローシュティー文字によるインド語(プラークリット)で *maharajasa tratarasa* ^{改行} *menadrasa* 「救済者たる大王メナンドロスの」とある。表裏はほぼ同様の意味となる。一行目の銘文の文字は貨幣の内から外を見るように、二行目の文字は貨幣の外から内を見るように並ぶ。このような貨幣は、バクトリア王国以前には絶無であり、ギリシアとインドの接触によって生み出されたものである。

どのように出現したか バクトリア王国の貨幣銘文には、次のような①②③の三つのパターンがある。①ギリシア語を片面に書く → ②ギリシア語を両面に書く → ③ギリシア語とインド語を両面に書く。この①②③は発行時期の推移ともなっている。興味深いことに、③が成立した頃、インド側にも既に、ブラーフミー文字インド語で王名属格を書く貨幣銘文があった¹。そうであるならば、②のギリシア語の片方をインド語に入れ替えること

¹ J, Allan(1936)によると、紀元前3世紀よりも古い時代の貨幣で、銘文を持つものは無く、紀元前3世紀に至ると銘文を持つ貨幣が三種出てくる。いずれの貨幣も王名属格の銘文を持つ。J, Allanは、‘前3世紀’とする根拠を明示しないが、三種の貨幣のブラーフミー文字の字形は、前3世紀のアショーカ王碑文のブラーフミー文字の字形と同じである。三種の貨幣の内、最も古いものとされる貨幣のブラーフミー文字の字形の一部は、アショーカ王碑文にしか無い字形となっている。また、この貨幣の銘文の書写方向が興味深い。左から右ではなく、右から左という古風な書写方向となっている。以上の二点により、少なくとも三種の内、最古とされる貨幣については、前3世紀に発行された貨幣と見て、特段の不都合はない。問題は、前3世紀だとして、この王名属格の銘文が、ギリシア様式の影響

によって、無理なく③の二言語併用貨幣を作り出すことができる。

なぜ出現したか デメトリオス I 世はインド西北に侵出したわけであるが、その子の代より二言語併用貨幣は現れた。中村元・早島鏡正 1963『ミリンダ王の問い』は「貨幣も、征服者のみならず被征服者の必要にも応じたものでなければならなかった。」とする。被征服者の必要に応じて、征服者が発行する貨幣にインド語の銘文を補充したという考えである。当時のインドでは、先に述べたように、インド語による王名属格の銘文を持つ貨幣が既に発行されていたらしい。そうであるならば、インド語銘文の補充はインド人の必要に応じたものと言えよう。また、二言語併用貨幣が出現する七十年ほど前に、ガンダーラの西南方のカンダハルにギリシア語とアラム語という新旧の共通語による二言語併用のアショーカ王碑文が建っていた。そのため、ギリシア語とインド語の二言語併用貨幣は、アショーカ王碑文を擬したものに見えたであろう。そうであるならば、二言語併用は空前の貨幣様式ではあるが、インド人にとっても、ギリシア人にとっても、受け入れ易いものであったであろう。

2. Narain (2003)によるバクトリア王の系譜と五群

ギリシア語とインド語の二言語併用貨幣の出現の後、その様式は最終的にどのようなものとして確立したかを調査する。そのために、Narain (2003:305)に掲載されたバクトリア王の系譜を利用し、二言語併用貨幣の銘文の総表を作成する。Narain (2003:305)に掲載されたバクトリア王の系譜は下の図 1 のとおりであるが、一群から五群の枠組みは、吉池が Narain 氏の説によって書き加えた。Narain (2003:241-242)に五群の別につき次のようにある。

第一群：この群の共通点はパラス・アテナ女神図像あるいはアポロン神図像の使用 (These kings use both Pallas and Apollo)

第二群：この群の共通点は跳ね馬に乗る王の図像の使用 (....., who are connected with each other by their common use of the 'king on prancing horse' type.)

第三群：この群の共通点はヘラクレス神図像の使用 (Zoilus I, Lysias, and Theophilus use Heracles in common,)

によって成立したものか、それとも独自のものかということである。両言語の王名属格が、互いの影響に依らず、独立して存在していたとすると、そのことを証するためには、余程の論拠と議論が必要となる。他方の見方により、ギリシア語の影響により前 3 世紀には既にインド語で王名属格を書く貨幣が発行されていたとした方が無難であろう。無難ではあるが、前 3 世紀というと、アレクサンドロスの東征の最中であり、ギリシアはインドにとって敵対する勢力である。その敵対する勢力が発行した貨幣の影響を、インドはどのように被ったか、それを明らかにする必要がある。或いは、J, Allan の前 3 世紀とする推定に依らず、発行時期を前 2 世紀以降に引き下げて、バクトリア王国が発行した貨幣の影響であるとするならば、問題は氷解するが、なぜ古風な字形と書写方向が用いられたかということについて納得のゆく説明が必要となる。いずれにしても課題は残るが、ここでは、新たな論拠を得るまでの暫定的な措置として、J, Allan の推定に従い前 3 世紀発行の貨幣としておきたい。

3. 銘文総表

貨幣銘文の検討の順番は「図 1 王の系譜と五群」に依るとして、具体的な貨幣資料として何を使用するか。Mitchiner(1975)の Volume 1,2,3 にバクトリア王国の貨幣の画像が網羅されているので、この情報を Narain 氏の王の系譜に当てはめることにする。王の系譜と即位年は研究者によりだいぶ異なるようであるが、ここではナライン氏の説により作業をする。貨幣の形態がギリシア様式の円形か、それともインド様式の方角（円形も少なくない）かという点、二言語併用貨幣の銘文がどのようなものであるかという点に着目して銘文の総表を作り表 1 とする。表 1 によりインド・ギリク朝に出現した二言語併用貨幣の様式がどのようなものとして最終的に確立したかを検討する。

銘文総表の説明

・王名の表記は、ギリシア語とインド語とでは異なるが、訳文においては前田耕作(2019:159)に掲載された表「グレコ・バクトリア諸王の系譜(ナラインによる)」の片仮名表記による。

・二言語併用貨幣の発行が無い王は「二言語併用無し」とする。発行がある王は銘文を提示する。

・【】内の数字は Mitchiner (1975)の貨幣番号。

・貨幣の形態（円形か方角か）と銘文が同一である場合、図像が異なっているも、一つにまとめ、貨幣番号が若い 1 例を代表として提示する。その一つにまとめた貨幣は、※を付して「※【151 方角, 152 方角】は【149 方角】と同じ」のように注記して示す。

・Mitchiner (1975)に銘文の原文が翻字されていても、貨幣の画像が不鮮明で確認できないものは採用しない。

・銘文及び引用辞書の原文はローマ字に翻字して示す。

・「Greek」はギリシア文字ギリシア語の略記。「Brāhmī」はブラーフミー文字インド語の略記。「Kharoshthi」はカローシュティー文字インド語（プラークリット）の略記とする。

・銘文には一行だけのものと、二行にわたるものがある。一行目（貨幣の内側から外を見るように文字が並ぶ）には下線_____を付し、二行目（貨幣の外側から内側を見るように文字が並ぶ）には下線_____を付す。行間に／を付して二行であることを明示する。

・表中の「※銘文の配置」は方角（ほぼ正方形）貨幣の四辺（上下左右）と銘文を対応させたもの。

表 1. 二言語併用貨幣「銘文総表」

01 ディオドトス I 世(前 256-前 248)	二言語併用無し
02 ディオドトス II 世(前 248-前 235)	二言語併用無し
03 エウテュデモス I 世(前 235-前 200)	二言語併用無し

04 デメトリオス I 世(前 200-前 185) 二言語併用無し

Mitchiner (1975:55-61)は、I 世の貨幣と II 世の貨幣を区別せずに DEMETRIOS として提示する。その中に含まれる二言語併用貨幣は全て II 世が発行した貨幣として処理することができるので、I 世に二言語併用貨幣はない。詳細はデメトリオス II 世の項参照。

05 エウテュデモス II 世(前 200-前 190) 二言語併用無し

06 アンティマコス I 世(前 190-前 180) 二言語併用無し

Mitchiner (1975:73-76)は、I 世の貨幣と II 世の貨幣を区別せずに ANTIMACHOS として提示する。その中に含まれる二言語併用貨幣は全て II 世が発行した貨幣として処理することができるので、I 世に二言語併用貨幣はない。詳細は第二群のアンティマコス II 世の項を参照。

07 パンタレオン(前 185-前 175)

【161 方形】

表 Greek: basileōs(王の)² / pantaleontos(パンタレオンの)

裏 Brāhmī: rajane(王の)³ / pamtalevasa(パンタレオンの)

* 銘文の配置

表 Greek : 上 basileōs 下 pantaleontos (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 rajane 左 pamtalevasa (王名属格)

08 アガトクレス(前 180-前 165)

【149 方形】

表 Greek: basileōs(王の) / agathokleōys(アガトクレスの)

裏 Brāhmī: rajane(王の) / agathuklayasa(アガトクレスの)

* 銘文の配置

表 Greek : 右 basileōs 左 agathokleōys (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 rajane 左 agathuklayasa (王名属格)

【151 方形】

表 Greek: basileōs(王の) / agathokleōys(アガトクレスの)

裏 Brāhmī: rajane(王の) / agathuklayasa(アガトクレスの)

* 銘文の配置

² H. G. Liddell & R. Scott(1961:309)のギリシア語は basileys を王とする。その単数属格として basileōs を挙げる。

³ Narain (2003:348)は rajane を王の属格とする。T.W.Rhys Davids, William Stede(1921-35:579)のパーリ語は rājā(rājan)を王とする。その単数属格として rañño, rājino を挙げる。-ne を属格とする語構成については不明であるが、対応するギリシア語銘文に従い rajane を王の属格とする。

表 Greek : 上 basileōs 下 agathokleōys (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 rajane 左 agathuklayasa (王名属格)

※【152 方形】は【151 方形】と同じ。

09 デメトリオス II 世(前 180-前 165)

Mitchiner (1975:55-61)は、I 世と II 世の貨幣を区別せずに DEMETRIOS として提示する。DEMETRIOS に収録されている各種貨幣を画像と銘文の類似に依りまとめると次の 8 種となる。1【101】【102】、2【103】【104】【105】、3【106】【107】、4【108】、5【109】、6【110】、7【111】、8【112 方形】となる。これらは銘文の特徴により 1~5 と 6,7,8 の二種に分けることができる。

	1~5	6,7,8
銘文 : basileōs(王の) + 王名	○	
銘文 : basileōs(王の)anikētoy(無敵の) + 王名		○
銘文 : 一言語	○	
銘文 : 二言語併用		○
銘文 : 線状	○	
銘文 : 円状		○ (8 は方形で、左・上・右の三辺に銘文を配する。これを円状の配置の一種と見る。)

1~5 と 6,7,8 の二種のうち何れが II 世のものか。銘文が縦もしくは横に線状に配置されるかそれとも貨幣の淵に沿って円状に配置されるか (8 の方形貨幣は辺に沿って配置される。円状の一種とする) を見ると、円状に配置されるのはエウクラティデス I 世(前 171-前 155)以降であり、円状は相対的に後期のものと見ることができる。これにより 6,7,8 を、1~5 よりも後のもの、すなわちデメトリオス II 世のものとする。

【110 円形】

表 Greek: basileōs(王の)anikētoy(無敵の)⁴ / dēmētrioy(デメトリオスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)⁵aparajitasa(無敵の)⁶ / dimetriyasa(デメトリオスの)

※【111 円形】は【110 円形】と同じ。

⁴ H. G. Liddell & R. Scott(1961:143)のギリシア語は anikētos を unconquered(征服されない),unconquerable(征服できない)とする。グプタ, P.L.(1969)・山崎元一他訳(2001:24)は anikētoy に「無敵の」との日本語訳を付す。山崎氏の訳による。

⁵ T.W.Rhys Davids, William Stede(1921-35:579)のパーリ語は mahārājā を great king(大王)とする。水野弘元(2000;10 版)のパーリ語文法によると名詞の-a 語基,-an 語基の属格を-assa とする。

⁶ T.W.Rhys Davids, William Stede(1921-52)のパーリ語は aparājita を形容詞の unconquered(征服されない)とする。ギリシア語 anikētoy(無敵の)の訳語と合わせて無敵のとする。

【112 方形】

表 Greek: basileōs(王の)anikētoy(無敵の) dēmētrioy(デメトリオスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)aparajitasa(無敵の) dimetriyasa(デメトリオスの)

* 銘文の配置

表 Greek : 左 basileōs 上 anikētoy 右 dēmētrioy(王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 maharajasa 上 aparajitasa 左 dimetriyasa (王名属格)

10 エウクラティデス I 世(前 171-前 155)

Mitchiner (1975:86-100)は、I 世と II 世の貨幣を区別せずに EUCRATIDES として提示する。Narain (2003:141)によるとエウクラティデス II 世(前 140- 無記)は前掲「図 1 王の系譜と五群」にあげた内の第四群に属す。第四群の共通点はゼウス神図像の使用にあるが、エウクラティデス II 世とディオメデスは例外としてアポロン神と、ゼウス神の双子の子ディオスクーロイを使用する⁷。ゼウス神は使用しない。EUCRATIDES 中の二言語併用貨幣の図像は各種ある。ディオスクーロイ、ニケ神、都市カピシヤの守護神である。そのうちディオスクーロイを使用するものはエウクラティデス II 世として良いとして、ニケ神と都市カピシヤの守護神を使用するものについては I 世と II 世の可能性がある。証拠が見つかるまでの便宜的な措置として、ディオスクーロイを II 世のもの、ニケ神と都市カピシヤの守護神を I 世のものとして処理する。

【189 方形】

表 Greek: basileōs(王の)megaloy(大きい)⁸ / eykratidoy(エウクラティデスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の) / evukratidasa(エウクラティデスの)

* 銘文の配置

表 Greek : 上 basileōs 右 megaloy 下 eykratidoy (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 maharajasa 左 evukratidasa (王名属格)

⁷ Narain (2003:141)には「(IV) Eucratides II, Archebius, Heliocles II, Antialcidas, Diomedes, Amyntas, Telephus, and Hermaeus seem to belong to the family of Eucratides I. With the exception of Eucratides II and Diomedes, who use Apollo and Dioscuri respectively, the kings of this group are associated by their main type, Zeus.」とある。前田耕作(2019:244)は Narain 氏の議論を参照して、第四群の共通点として「アポロンを採用していることで共通している」(244 頁)とするがこれは何かの誤解である。上に挙げた Narain 氏の引用文に依るならば、第四群はゼウス神の採用を共通点とするが、エウクラティデス II 世とディオメデスは例外としてアポロン神と、ゼウス神の双子の子ディオスクーロイ(Διοσκούροι)を使用し、ゼウス神は使用しない。

⁸ H. G. Liddell & R. Scott(1961:1088)のギリシア語は megas を big(大きい)、属格は megaloy とする。

【193 方形】

表 Greek: basileōs(王の)megaloy(大きい) eykratidoy(エウクラティデスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の) rajatirajasa(諸王の中の王の)⁹evukratidasa(エウクラティデスの)

* 銘文の配置

表 Greek : 左 basileōs 上 megaloy 右 eykratidoy (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 maharajasa 上 rajatirajasa 左 evukratidasa (王名属格)

【194 方形】

表 Greek: basileōs(王の)megaloy(大きい) eykratidoy(エウクラティデスの)

裏 Kharoshthi: kaviṣiye(カピシヤの)¹⁰nagara(城)¹¹ devata(女神)¹²

* 銘文の配置

表 Greek : 左 basileōs 上 megaloy 右 eykratidoy (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 kaviṣiye 上 nagara 左 devata (主格)

11 メナンドロス(前 155-前 130)

【213 円形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)¹³menandroy(メナンドロスの)

裏 Kharoshthi:maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)¹⁴mena(or menaṃ)drasa*(メナンドロスの)

* menadrassa のように-na-と翻字できるものが大半であるが menaṃdrassa のように-naṃ-と翻字できるものもある。これ以後は-na-として翻字する。

※【220 円形】は【213 円形】と同じ。

⁹ T.W.Rhys Davids, William Stede(1921-52)のパーリ語は rājā(rājan)を king(王)とする。荻原雲来・辻直四郎(1979)は rajaraja を「諸王の中の王」とする。

¹⁰ Mitchiner (1975:100)は kaviṣiye とローマ字に翻字するが原字を見ると si ではなく śi である。Mitchiner は kapisa を都市名とする。

¹¹ T.W.Rhys Davids, William Stede(1921-52:353)のパーリ語は nagara を a (fortified)town,city(要塞化された都市)とする。

¹² T.W.Rhys Davids, William Stede(1921-52:337)のパーリ語は devatā を(f.) divine being, deity,fairy とするので「神格、多神教の神、妖精」に相当する。グプタ (1969,山崎訳 2001:24)は「カピシヤ市の守護女神」とする。

¹³ H. G. Liddell & R. Scott(1961:1751)のギリシア語は sōtēr を saviour(救世主), deliverer(救済者)とする。救済者という訳語を採る。

¹⁴ 荻原雲来・辻直四郎(1979:554)のサンスクリット語は trātṛ を「保護者、救助者」とする。貨幣銘文の tratar は trātṛ に対応する語であろう。その属格形は tratarasa。ギリシア語と表現を合わせて「救済者の」と和訳する。なおカローシュティ文字の tratarasa における ta の後の ra の字形は、maharajasa の ra と異なり、左に平行に突き出た部分がない。

【214 円形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)/menandroy(メナンドロスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)/menadrassa(メナンドロスの)

※【215 円形, 216 円形, 217 円形, 218 円形, 219 円形, 221 円形, 224 円形, 225 円形, 226 円形, 227 円形】は【214 円形】と同じ。

【228 円形】

表 Greek: basileōs(王の)dikaioy(正義の)¹⁵/menandroy(メナンドロスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)dhramikasa(正義の)¹⁶/menadrassa(メナンドロスの)

※【229 円形, 230 円形】は【228 円形】と同じ。

【231 方形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の) menandroy(メナンドロスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の) menadrassa(メナンドロスの)

* 銘文の配置

表 Greek : 左 basileōs 上 sōtēros 右 menandroy (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 maharajasa 上 tratarasa 左 menadrassa (王名属格)

※【232 方形, 233 方形, 235 方形, 236 方形, 238 方形, 239 方形, 240 方形, 242 方形, 243 方形, 244 方形, 245 方形, 246 方形, 249 方形, 250 方形, 251 方形】は【231 方形】と同じ。

【237 方形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)/menandroy(メナンドロスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)/menadrassa(メナンドロスの)

* 銘文の配置

表 Greek : 上 basileōs 右 sōtēros 下 menandroy (王名属格)

裏 Kharoshthi : 上 maharajasa 左 tratarasa 下 menadrassa (王名属格)

【247 方形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)/menandroy(メナンドロスの)

¹⁵ H. G. Liddell & R. Scott(1961:429)のギリシア語は dikaios を observant of duty to gods and men (神や人に対する責務・義務に従う), righteous (正義の) とする。Narain (2003:348)は just (公平な, 正当な) とする。グプタ (1969,山崎訳 2001:24)は「正義の」とする。

¹⁶ T.W.Rhys Davids, William Stede(1921-52:347)のパーリ語は dhammika を [adj.=Sk.dharmya] とし、law ful(合法的な), legitimate(正当な), righteous(正義の), honourable(高潔な)などとする。荻原雲来・辻直四郎(1979:638)のサンスクリット語は dharmya を「合法の, 神聖な習慣によって許された, 正当の」とする。グプタ (1969,山崎訳 2001:26)は一段踏み込んだ訳を採用し「正しい法に立つ」とする。ここではギリシア語の表現と合わせて「正義の」とする。

裏 **Kharoshthi**: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の) menadrassa(メナンドロスの)

* 銘文の配置

表 Greek : 上 basileōs 右 sōtēros 下 menandroy (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 maharajasa 上 tratarasa 左 menadrassa (王名属格)

【252 方形】

表 **Greek**: basileōs(王の) dikaioy(正義の) menandroy(メナンドロスの)

裏 **Kharoshthi**: maharajasa(大王の) dhramikasa(正義の) menadrassa(メナンドロスの)

* 銘文の配置

表 Greek : 左 basileōs 上 dikaioy 下 menandroy (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 maharajasa 上 dhramikasa 左 menadrassa (王名属格)

※ 【253 方形, 254 方形】は【252 方形】と同じ。

第一群 第一群の共通点はパラス・アテナ女神画像あるいはアポロン神画像の使用

12 ストラトン I 世(前 130-前 95)

【303 円形】

表 **Greek**: basilissēs(女王の)¹⁷ theotropoy(神のような)¹⁸ / agathokleias(アガトクレイアの)¹⁹

裏 **Kharoshthi**: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)dhramikasa(正義の) / stratasa(ストラトンの)

【305 円形】

表 **Greek**: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)stratōnos(ストラトンの) / kai(と)²⁰ agathokleias(アガトクレイアの)

裏 **Kharoshthi**: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)stratasa(ストラトンの) / agathukriae(アガトクレイアの)

¹⁷ H. G. Liddell & R. Scott(1961)のギリシア語は basileia を「fem. of basileys:—queen」(309 頁)とし、basilissa を「Eust Roman Imperial princess」(310 頁)とする。Sear, D. R. (1979)によりプトレマイオス朝の貨幣銘文をみると、女王ベレニケ II 世は berenikēs basilissēs(737 頁)とあり、女王クレオパトラ I 世は kleopatras basilissēs(746 頁)とある。これより basilissēs を basilissa(女王)の属格形とする。

¹⁸ Narain (2003:349)は theotropoy を「God-like, Godmannered」(神のような)とする。H. G. Liddell & R. Scott(1961)のギリシア語は theos を「God」神とし、tropos を「turn」(回転)「direction」方向、「way」方法、方向「manner」振る舞い、「fashion」様式・やり方、「guise」外観・身なり、などとする。theotropoy を、theotropos(神の振る舞い)の、男・単数・属格形と見て Narain の訳「神のような」に従う。

¹⁹ Mitchiner (1975:vol.2,169)はアガトクレイアをストラトンの母であり摂政とする。

²⁰ H. G. Liddell & R. Scott(1961)のギリシア語は kai を「and」(~と)とする。

【306 円形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)stratōnos(ストラトンの)／kai(と)agathokleias(アガトクレイアの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)dhramikasa(正義の)／stratasa(ストラトンの)

【307 方形】

表 Greek: basilissēs(女王の)theotropoy(神のような)agathokleias(アガトクレイアの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)dhramikasa(正義の)stratasa(ストラトンの)

＊銘文の配置

表 Greek : 左 basilissēs 上 theotropoy 右 agathokleias (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 maharajasa 上 tratarasa-dhrami 左 kasa-stratasa (王名属格)

【308 円形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)／stratōnos(ストラトンの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)／stratasa(ストラトンの)

※【309 円形】は【308 円形】と同じ。

【311 円形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)／stratōnos(ストラトンの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)dhramikasa(正義の)／stratasa(ストラトンの)

※【312 円形, 313 円形, 314 円形】は【311 円形】と同じ。

【315 円形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)kai(と)dikaioy(正義の)／stratōnos(ストラトンの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)dhramikasa(正義の)／stratasa(ストラトンの)

※【316 円形, 317 円形, 318 円形, 319 円形】は【315 円形】と同じ。

【320 円形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の) dikaioy(正義の)／stratōnos(ストラトンの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)dhramikasa(正義の)／stratasa(ストラトンの)

※【321 円形, 324 円形, 325 円形, 326 円形, 327 円形, 328 円形, 329 円形】は【320 円形】

と同じ。

【330 円形】

表 Greek: basileōs(王の)epiphanoy(s(高名な)^{2 1}sōtēros(救済者の)/stratōnos(ストラトンの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)pracachasa(高名な)^{2 2}tratarasa(救済者の)/stratasa(ストラトンの)

※ 【331 円形, 332 円形, 335 円形】 は 【330 円形】 と同じ。

【333 方形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)stratōnos(ストラトンの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)stratasa(ストラトンの)

* 銘文の配置

表 Greek : 左 basilissēs 上 sōtēros 右 stratōnos (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 maharajasa 上 tratarasa 左 stratasa (王名属格)

【334 方形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の) dikaioy(正義の) stratōnos(ストラトンの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の) dhramikasa(正義の) stratasa(ストラトンの)

* 銘文の配置

表 Greek : 左 basileōs-sō 上 tēros-dikaioy 右 stratōnos (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 maharajasa 上 tratarasa-dhrami 左 kasa-stratasa (王名属格)

【336 方形】

表 Greek: basileōs(王の)epiphanoy(s(高名な)sōtēros(救済者の) stratōnos(ストラトンの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)pracachasa(高名な) tratarasa(救済者の) stratasa(ストラトンの)

* 銘文の配置

表 Greek : 左 basileōs-epipha 上 noys-sōtē 右 ros-stratōnos (王名属格)

^{2 1} H. G. Liddell & R. Scott(1961)のギリシア語は epiphanēs を「coming to light」(明らかになる)「coming suddenly into view」(出現する、顕現する)、「famous」(有名な)「renowned」(高名な)とする。Narain (2003:348)は epiphanoy(s) を「illustrious」(著名な、名高い、偉大な)とする。グプタ, P.L.(1969)・山崎元一他訳(2001:24)に「顕現の」との日本語訳があるのは辞典の前半の意味によるものであろう。ここでは、epiphanoy(s) を形容詞 epiphanēs の属格と見て「高名な」とする。

^{2 2} Narain (2003:348)は epiphanoy(s) と pracachasa の両者に英訳「illustrious」(著名な、名高い、偉大な)を付す。pracachasa の語構造を説明できないが意味は Narain (2003:348)によることとする。

裏 Kharoshthi : 右 maharajasa 上 pracachasa 左 tratarasa-stratasa (王名属格)

13 アポッドトス(前 115-前 95)

【423 円形】

表 Greek: basileōs(王の)megaloy(偉大な)sōtēros(救済者の)kai(と)philopatoros(父を敬う)^{2 3} / apollodotoy(アポッドトスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の) / apaladatasa(アポッドトスの)

【424 円形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)kai(と)philopatoros(父を敬う) / apollodotoy(アポッドトスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の) / apaladatasa(アポッドトスの)

【425 円形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の) / apollodotoy(アポッドトスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の) / apaladatasa(アポッドトスの)

※ 【432 円形】 は 【425 円形】 と同じ。

【427 方形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の) kai(と) philopatoros(父を敬う) / apollodotoy(アポッドトスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の) / apaladatasa(アポッドトスの)

* 銘文の配置

表 Greek : 左 basileōs-sō 上 tēros-kai 右 philopatoros 下 apollodotoy(王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 mahara 上 jasa-trata 左 rasa 下 apaladatasa (王名属格)

【428 方形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の) apollodotoy(アポッドトスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)apaladatasa(アポッドトスの)

* 銘文の配置

表 Greek : 左 basileōs 上 sōtēros 右 apollodotoy (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 maharajasa 上 tratarasa 左 apaladatasa (王名属格)

※ 【429 方形, 433 方形】 は 【428 方形】 と同じ。

^{2 3} H. G. Liddell & R. Scott(1961)のギリシア語は philopatōr を「loving one's father」(父を愛すること)とする。philopatoros は philopatōr の属格。グプタ, P.L.(1969)・山崎元一他訳(2001:24)に「父を敬う」との日本語訳があり、これに従う。

【431(円形)＊】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の) apollodotoy(アポッロドトスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)apaladatasata(アポッロドトスの)

＊ 銘文の配置

表 Greek : 左 basileōs 上 sōtēros 右 apollodotoy (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 maharajasa 上 tratarasa 左 apaladatasata (王名属格)

＊ 地金は円形であるが、銘文の配置は方形。

【434 円形】

表 Greek: basileōs(王の)／apollodotoy(アポッロドトスの)＊

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)／apaladatasata(アポッロドトスの)

＊ basileōs は貨幣の左側縦・左から右、apollodotoy は貨幣の右側縦・左から右。

14 ゾイロスⅡ世(前95-前80)

【458 円形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)／zōiloy(ゾイロスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)／jhoilasa(ゾイロスの)

※ 【459 円形, 461 円形, 462 円形】 は 【458 円形】 と同じ。

【460 方形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の) zōiloy(ゾイロスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の) jhoilasa(ゾイロスの)

＊ 銘文の配置

表 Greek : 左 basileōs 上 sōtēros 右 zōiloy (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 maharajasa 上 tratarasa 左 jhoilasa (王名属格)

15 ディオニュシウス(前95-前80)

【454 円形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)／dionysioy(ディオニュシウスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)／diunisiyasa(ディオニュシウスの)

【455 方形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の) dionysioy(ディオニュシウスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の) diunisiyasa(ディオニュシウスの)

＊ 銘文の配置

表 Greek : 左 basileōs 上 sōtēros 右 dionysioy (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 maharajasa 上 tratarasa 左 diunisiyasa (王名属格)

【456 (円形) *】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)dionysioy(ディオニュシウスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)diunisiyasa(ディオニュシウスの)

* 地金は円形であり、銘文の配置は方形。

* 銘文の配置

表 Greek : 左 basileōs 上 sōtēros 右 dionysioy (王名属格)

裏 Kharoshthi : 右 maharajasa 上 tratarasa 左 diunisiyasa (王名属格)

16 アポロパネス (前 95-前 80)

【467 円形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)/apollophanoy(アポロパネスの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)/apulaphanasa(アポロパネスの)

17 ストラトン II 世 (前 80-前 75)

【468 円形】

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)/stratōnos(ストラトンの)

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)/stratasa(ストラトンの)

※ 【469 円形】 は 【468 円形】 と同じ。

【473 円形】

表 Greek: basileōs sōtēros stratōnos kai phil stratōnos^{2 4}

裏 Kharoshthi: maharajasa tratarasa stratasa putrasa casa priyapita stratasa

※ Mitchiner (1975:280)は 【473 円形】 の銘文を上記のように提示するが画像が不鮮明なため確認が困難である。【474】 【475】 の銘文も同様に確認が困難である。

第二群以降の情報は次回 279 号に掲載する

^{2 4} Mitchiner (1975:vol.3,280)は後者のストラトンを III 世とする。